

全校集会 学校長の話（2026年6月9日）

- きょうの全校集会は、久々に表彰から始まりました。みなさんの頑張りが、このように目に見える形となって現れるのは、本当にすばらしいことだと思います。
- 学校の活動だけでなく、学校の外で、例えば野球を頑張っている人、サッカーを頑張っている人、ダンスを頑張っている人など、いろいろな場所で努力している人がいると思います。それもすべて、北稜中学校の生徒が頑張っているということに変わりはありません。何かよい成績を取ったり、頑張った成果があったりしたら、ぜひ学校にも教えてほしいと思います。
- きょうは、3年生の修学旅行の話をしたと思います。ちょうど先週の火曜日から、3年生は修学旅行に出かけました。台風も近づいたり、心配な場面もありましたが、全員で無事に戻ってくることができました。その間、1年生、2年生のみなさんは、学校をしっかり守ってくれていたと思います。ありがとうございました。
- さて、その修学旅行の中で、ぜひみなさんに紹介したい出来事がありました。3年生には、解散式の際に話をしました。でも、もう一度します。それくらい僕は感動したことなので、もう一度、全校のみなさんにお話ししたいと思います。
- 修学旅行3日目、高山市内を自由散策する時間がありました。その時間に、生徒たちはお土産を買ったり、食べ歩きをしたりして、修学旅行最後の時間を満喫していました。ただ、当然、集合時間があります。ある生徒が、集合時間が近づいていることを気にしながら、レジに並んでいました。ところが、なかなかレジが進みません。
- そのとき、その北稜中学校の生徒の後ろに、別の学校の生徒が並んでいました。その生徒も、どうやら集合時間が迫っていて、とても急いでいる様子でした。そこで、北稜中学校の3年生はどうしたか。
「お先にどうぞ」
そう言って、レジの順番を譲ってあげたのです。
- そのことを、順番を譲ってもらった学校の先生が、北稜中学校の先生にわざわざ伝えてくださいました。「その生徒さんに、ありがとうと伝えてください。本当に感謝していました」。そういう連絡をいただきました。
- 僕は、これは本当にすごいことだと思います。日頃から

僕は、集会などで「自分を大切にしよう」「隣の人を大切にしよう」と話しています。でも、この行動は、それをさらに超えていると思いました。同じクラスの人でもない。同じ学校の人でもない。友だちでもない。見ず知らずの、全然知らない人です。それでも、その人が自分より困っているように見えた。だから、そっと優しさを差し出した。これは、「隣の人を大切にすること」の、ひとつの究極の姿だと思います。

- そして、その優しさを受け取って感謝した相手の生徒もすばらしい。そのことを学校の先生に伝えてくださった相手校の先生もすばらしい。それをまた、僕に伝えてくれた北稜中学校の先生もすばらしい。優しさが、そこで終わらずに、いろいろな人の心を通して、ちゃんと広がっていったのです。僕は、そこにも感動しました。
- 僕は日頃から、「生き抜く世の中」だけではだめだと思っています。そして、こういう学校にしたいんです。世の中には、イス取りゲームみたいな場面がたくさんあります。自分が座るために、誰かを押しつける。自分が得をするために、誰かが損をする。自分だけ間に合えばいい、自分だけ助かれればいい、自分だけ席を取れたらいい。でも、僕らがめざしたいのは、そういう世界じゃない。
- イスが足りないなら、もう一つイスを探せばいい。しんどそうな人がいたら、イスを譲ればいい。自分もしんどいなら、少し詰めて、半分ずつ座ることだってできるかもしれない。つまり、方法はあるのです。「自分か、相手か」だけではありません。「自分も、相手も」大切にする方法を考えることができます。
- 今回の修学旅行での出来事は、特別な場所だからできたことではありません。人に優しくする行動は、どこでもできます。学校の中でもできます。家でもできます。学校の外でもできます。電車に乗っているとき、しんどそうな人がいたら席を譲る。困っている人がいたら、少し声をかける。急いでいる人がいたら、順番を譲る。そういうちょっとした優しさが、誰かの心を大きく救うことがあります。
- そして、そういう優しさが学校の中に増えていけば、北稜中学校はもっと過ごしやすい学校になります。みんなが安心できる学校になります。今よりもう一つ、いい学校になります。
きょうの話を、ぜひ覚えておいてください。人に優しくする。隣の人を大切にすること。そして、隣の人だけでなく、知らない誰かのことも大切にできる人であってほしいと思います。